

# 2009年度 日本文化人類学会 総会 議事録

日時：2009年5月31日（日）13：10～14：20

会場：大阪国際交流センター 大ホール

議長：小池誠 議事録確認者：木名瀬高嗣、橋本和也

## 〔議題〕

### 1. 2008年度事業報告

- ・ 上杉富之庶務担当理事より別紙の通り報告があり、承認された。

### 2. 2008年度会計報告

- ・ 葛野浩昭会計担当理事より別紙の通り報告があり、承認された。

### 3. 2009年度事業計画案

- ・ 上杉富之庶務担当理事より別紙の通り報告があり、承認された。

### 4. 2009年度予算案

- ・ 葛野浩昭会計担当理事より別紙の通り報告があり、承認された。監事の宮治美江子会員より会員会費納入率の低下に対する対策について質問があり、対策の一つとして海外在住の会員からの会費徴収に PayPal の実験的導入を進めていることが報告された。

### 5. 名誉会員候補者の推薦について

- ・ 評議員会の提案を受け、青木保、松園万亀雄の2氏を名誉会員として推戴することが承認された。

### 6. 研究大会運営に関する提案

- ・ 研究大会運営検討委員会委員長の栗田総務担当理事より、研究大会運営についての提案があり、承認された。提案の内容と説明は以下の通り。

#### <提案>

- 1) 研究大会開催校は、従来からの口頭での個人発表・分科会発表のほかに、新たな形式として「ポスター発表」を導入することができる。

- 2) 研究大会における研究発表の水準を一定以上に保つために、査読制を導入する。  
査読委員会は理事会の下に置く。
- 3) 原則として、個人発表、分科会発表、ポスター発表を通じて、一人が発表出来る件数は1件とする。

#### <査読制導入の趣旨と経過説明>

研究発表に対する査読制の導入は、発表件数を減らすための方策としてではなく、研究発表の水準を一定以上に保つために行うものであり、査読は絶対評価で行われる。査読に当たっては、査読者が研究大会開催校の用意する発表件数を考慮することがないように、制度設計を行う。

査読制導入に関しては、第22期理事会が発足当初から検討を行ってきた。第23期理事会は、第22期理事会より、査読制導入についてさらに検討を行うよう申し送りを受け、昨年の総会の際に、査読制導入に関する検討を行うことが承認された。査読制を含む研究大会の在り方について、会員意見の募集を行った。

#### 7. その他

- ・ 山本真鳥会長より、新型インフルエンザの感染拡大に伴う懇親会の中止と参加者の減少により研究大会運営費が不足する見込みであること、不足分補填のために会場にて大会参加者から寄付を募っていることが報告された。引き続き、山本真鳥会長より、評議員会での審議を経て、最終的な不足分は学会会計の予備費から補填することが提案され、承認された。また、補填額と費目については理事会に一任することとした。
- ・ 次回研究大会開催担当校である立教大学の葛野浩昭理事より、2010年6月12日～13日に立教大学新座キャンパスにて第44回研究大会を開催予定であることが報告された。
- ・ スチュアート ヘンリ（本多俊和）会員より、アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会においてアイヌの研究機関の設置に向けて検討が進んでいることに対し、何らかの形で学会が積極的に関与することができるよう理事会で検討して欲しい旨の提案があり、上杉庶務担当理事より今後理事会において検討を行なうとの回答があった。
- ・ 国立民族学博物館館長である須藤健一理事より、新型インフルエンザの感染拡大に伴い懇親会を中止するに至った経緯について説明があり、研究大会運営費の不足額補填のための寄付への協力に対して謝辞が述べられた。また、今後の国立民族学博物館の活動内容及び方針が報告された。

以上